

口腔腫瘍学実習（安部貴大）

Training of Oral Oncology (Takahiro Abe)

キーワード

- ①口腔外科学
- ②顎顔面外科学
- ③頭頸部がん
- ④がんゲノム医療
- ⑤抗体医薬

授業概要

口腔を含め隣接する頭頸部の腫瘍全般を理解し、病期判定に必要な画像の読影や病理組織学的所見の基礎を習得するための診断実習を行う。また、頭頸部の構造は実に複雑であり、解剖学の知識は手術手技の観点からも非常に重要であることから、臨床解剖の実習を行う。さらに、がん研究を行ううえでの基本手技、主に生化学的、分子生物学的実験手法の知識習得、ならびに実習を行う。

授業科目の学修目標

口腔腫瘍の病理組織学的分類は多岐にわたり、治療の方針も多様である。診断から治療、そして後方支援のすべてを包括した俯瞰的知識と態度を学び、専門性の高い手技を習得しなければ、集学的ながん治療には参加出来ない。基礎研究から実臨床の実習を通じて積極的に経験の機会を得ることで、高度な口腔腫瘍学の技能を修得することを目標とする。

授業計画

- ①画像診断、病理診断学実習 12コマ
 - ・放射線科、病理診断科への見学を通して、各検査の手順を理解するとともに所見の取り方を学ぶ。
- ②臨床解剖学実習 12コマ
 - ・解剖学教室の協力をいただき、検体を用いた頭頸部解剖、手術手技を想定した実習を行う。
- ③実臨床での診断、治療計画立案実習 12コマ
 - ・各種画像評価の考察、治療方針の選択議論を通して、Shared-decision makingのプロセスを学ぶ。
- ④培養細胞およびモデル動物を用いた基礎系実習 24コマ
 - ・培養細胞やゼノグラフトモデルによるがん研究の手技を教授する。

実習担当教員：安部貴大 沢井奈津子 田中香衣 小松紀子 高才東 金森慶亮

教科書および参考書

- ・デヴィータがんの分子生物学 第2版 MEDSi
- ・臨床頭頸部癌学：系統的に頭頸部癌を学ぶために 南江堂

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

日々の知識習得は怠らず、細目に担当教員に確認をとりながら実習に臨むこと

大学院生が達成すべき行動目標

- ①基本となる諸検査から所見を読み取り、診断と治療方針の立案ができる
- ②治療選択に対する問題提起ができ、多職種連携とチーム医療の理解と態度が実践できる
- ③口腔腫瘍手術の基本手技を修得し実践することができる
- ④がん研究の理論を理解しリサーチマインドな態度をもって基礎実験を実践することができる

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	実技	その他
0%	0%	20%	0%	20%	20%	40%	0%

評価の要点

- ・レポートは、授業計画で行った講義について課題を提出する。10% x 2回 = 20%
- ・ポートフォリオは、担当する症例の治療計画、研究立案を提出する。10% x 2回 = 20%
- ・口頭試問は、授業終了後やカンファレンスで知識理解度を判定する。1% x 20回 = 20%
- ・実技は、授業計画の4項目について理解度と達成度を総合的に評価し判定する。10% x 4回 = 40%

理想的な達成レベルの目安

理解度、手技、態度の総合的評価において80%以上の達成を求める。